

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月5日
【四半期会計期間】	第98期第2四半期（自平成27年7月1日至平成27年9月30日）
【会社名】	新京成電鉄株式会社
【英訳名】	Shin-Keisei Electric Railway Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 笠井 孝悦
【本店の所在の場所】	千葉県鎌ヶ谷市くぬぎ山四丁目1番12号
【電話番号】	(047)389-1125
【事務連絡者氏名】	財務戦略部主計資金担当課長 伊矢野 利郎
【最寄りの連絡場所】	千葉県鎌ヶ谷市くぬぎ山四丁目1番12号
【電話番号】	(047)389-1125
【事務連絡者氏名】	財務戦略部主計資金担当課長 伊矢野 利郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第97期 第2四半期 連結累計期間	第98期 第2四半期 連結累計期間	第97期
会計期間		自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
営業収益	千円	9,840,110	10,227,451	19,765,981
経常利益	千円	1,688,863	2,040,970	3,118,802
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	千円	1,001,580	1,381,411	1,863,851
四半期包括利益又は包括利益	千円	1,572,292	904,737	3,821,970
純資産額	千円	31,378,908	34,229,898	33,490,289
総資産額	千円	69,883,498	75,493,242	74,316,147
1株当たり 四半期(当期)純利益金額	円	18.24	25.16	33.95
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	円	-	-	-
自己資本比率	%	44.9	45.3	45.1
営業活動による キャッシュ・フロー	千円	2,299,593	2,958,951	3,856,866
投資活動による キャッシュ・フロー	千円	1,110,121	1,225,000	2,955,222
財務活動による キャッシュ・フロー	千円	1,091,352	959,293	1,440,956
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	千円	4,663,767	4,800,991	4,026,333

回次		第97期 第2四半期 連結会計期間	第98期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	円	7.12	11.42

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 営業収益には、消費税等を含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府及び日本銀行の各種政策を背景に、雇用や所得環境が改善するなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のもとで、当社グループでは安全管理体制の更なる充実を根幹とし、引き続き全事業において積極的な営業活動を展開するとともに、経営基盤の強化並びに効率化に努めました。

その結果、営業収益は10,227百万円（前年同期比3.9%増 387百万円）、営業利益は2,016百万円（前年同期比17.1%増 293百万円）、経常利益は2,040百万円（前年同期比20.8%増 352百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,381百万円（前年同期比37.9%増 379百万円）となりました。

これをセグメントごとに示すと次のとおりであります。

（運輸業）

鉄道事業では、安全輸送確保の取り組みとして、踏切保安設備の新設・更新工事、土留擁壁補強工事を行いましたほか、ロングレール化工事、高圧配電線ケーブル化工事、デジタルATS工事をすすめております。また、旅客サービスに関わる向上策として自動改札機の更新工事を実施いたしました。

鎌ヶ谷市内の連続立体交差化工事につきましては、早期完成を目指し高架橋構築等の工事をすすめております。

営業面につきましては、沿線健康ハイキングを実施したのをはじめ、千葉ロッテマリーンズとのコラボレーションによるラッピング電車の運行を行いましたほか、ふなばしアンデルセン公園等の行楽施設の前売り券や企画乗車券の販売を行いました。このほか全線開通60周年を記念して、ヘッドマークを付けた電車を運行したほか、記念乗車券を販売し旅客誘致と増収対策に努めました。

バス事業の一般乗合輸送につきましては、環境や高齢者などに配慮した車両への代替を7両実施いたしましたほか、船橋新京成バス株式会社が、始発の繰上げや終車の繰下げを行うなどのダイヤ改正を実施しました。

貸切・特定輸送につきましては、船橋新京成バス株式会社が企業輸送及び学校輸送を新規に受注するなど収益確保に取り組みました。また、9月15日付で、船橋新京成バス株式会社及び松戸新京成バス株式会社が公益社団法人日本バス協会より貸切バス事業者安全性評価認定制度の2つ星評価認定を受けました。

以上の結果、営業収益は8,122百万円（前年同期比2.0%増 160百万円）、営業利益は1,148百万円（前年同期比23.5%増 218百万円）となりました。

(業種別営業成績表)

業種別	当第2四半期連結累計期間 (27.4.1~27.9.30)	
	営業収益(百万円)	前年同期比(%)
鉄道事業	5,717	2.2
バス事業	2,677	0.3
消去	272	-
営業収益計	8,122	2.0

(提出会社の鉄道事業営業成績表)

種別	単位	当第2四半期連結累計期間 (27.4.1~27.9.30)	前年同期比(%)
営業日数	日	183	-
営業キロ	キロ	26.5	-
客車走行キロ	千キロ	7,414	2.8
輸送人員			
定期	千人	33,747	2.2
定期外	"	18,858	1.5
計	"	52,605	2.0
旅客運輸収入			
定期	百万円	2,670	2.5
定期外	"	2,882	1.6
計	"	5,553	2.0
運輸雑収	"	164	9.3
運輸収入合計	"	5,717	2.2
乗車効率	%	39.0	-

(注) 乗車効率の算出方法

$$\text{乗車効率} = \frac{\text{延入キロ(駅間通過人員} \times \text{駅間キロ程)}}{\text{(客車走行キロ} \times \text{平均定員)}} \times 100$$

(不動産業)

不動産賃貸業では、空室へのテナント誘致を積極的に行い物件稼働率の向上に努めましたほか、賃貸施設の保全工事を実施いたしました。

新規賃貸施設として、薬園台駅前ビルを住宅型有料老人ホームとして一括賃貸し、4月に開業いたしました。

不動産分譲業につきましては、八千代市内の西八千代北部特定土地区画整理事業地内において宅地造成工事(全61区画)に着手し、平成28年度の販売開始に向け工事をすすめております。

以上の結果、営業収益は1,606百万円(前年同期比1.4%増 22百万円)、営業利益は822百万円(前年同期比4.2%増 33百万円)となりました。

(業種別営業成績表)

業種別	当第2四半期連結累計期間 (27.4.1~27.9.30)	
	営業収益(百万円)	前年同期比(%)
不動産分譲業	2	0.8
不動産賃貸業	1,603	1.4
消去	-	-
営業収益計	1,606	1.4

(その他)

その他(コンビニ事業等)では、8月に高根公団駅に新たにコンビニ店舗を出店し、現在7駅8店舗でコンビニ店舗を営業し、ご利用のお客様よりご好評を頂き順調に推移しております。今後も新規出店の検討を含め、事業基盤の強化に努めてまいります。

以上の結果、営業収益は588百万円(前年同期比57.4%増 214百万円)、営業利益は31百万円(前年同期は営業損失10百万円)となりました。

(業種別営業成績表)

業種別	当第2四半期連結累計期間 (27.4.1~27.9.30)	
	営業収益(百万円)	前年同期比(%)
コンビニ事業等	588	57.4
消去	-	-
営業収益計	588	57.4

(2)財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、投資有価証券の減少等がありましたものの、現金及び預金、有形固定資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ1,177百万円(前期比1.6%増)増加し、75,493百万円となりました。

負債は、未払金、借入金の減少等がありましたものの、前受金の増加等により前連結会計年度末に比べ437百万円(前期比1.1%増)増加し、41,263百万円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の減少等がありましたものの、利益剰余金の増加等により前連結会計年度末に比べ739百万円(前期比2.2%増)増加し、34,229百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前第2四半期連結会計期間末に比べ137百万円（前年同期比2.9%増）増加し、4,800百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は2,958百万円（前年同期比28.7%増）となりました。

これは主に法人税等の支払額が411百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益2,042百万円及び減価償却費1,397百万円が計上されたこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は1,225百万円（前年同期比10.3%増）となりました。

これは主に工事負担金等受入による収入が2,331百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が3,553百万円と大きかったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は959百万円（前年同期比12.1%減）となりました。

これは主に長期借入金の返済による支出が791百万円及び配当金の支払額が166百万円あったこと等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループの主たる事業である運輸業は、鉄道事業法等により、運賃等の設定及び施設の新設・保全等に関する法的な規制を受けており、今後、規制の変更がなされた場合には、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。近年の少子高齢化の進展は、生産年齢人口の減少により、今後も、鉄道事業及びバス事業とも厳しい状況が予想され、中長期的には当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。また、当社グループの借入金は当第2四半期連結会計期間末10,475百万円となっており、今後金利水準が大幅に上昇した場合には、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

当社グループといたしまして、これらの状況を踏まえて、お客様に安心かつ快適にご利用いただけますよう、引き続き安全管理体制を維持・強化するとともに、安全確保並びにバリアフリー化に向けた諸施設の整備・改善を積極的に推進し、より一層の旅客サービスの向上に取り組みつつ旅客誘致に努めてまいります。金利上昇の影響については、借入金の抑制並びに固定金利化を図るなどにより、金利上昇によるリスクの軽減に努めてまいります。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、「(3)キャッシュ・フローの状況」をご参照下さい。

当社グループは、運輸業に経営資源を集中的に投入し、安全の確保を目指します。この投資に係る所要資金は、営業活動によって得られる資金を充てるほか、借入金等により調達する予定であります。全事業における収益力強化の徹底等により、有利子負債の増加を抑制する所存であります。

(8)経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、当社グループを取り巻く事業環境を、沿線の少子高齢化が一段とすすみ、厳しい状況であると認識しております。

このような状況を踏まえ、当社グループでは、「中期経営計画（平成25年度～平成27年度）」に基づく諸計画の着実な推進を通じて経営基盤の更なる強化に努め、新京成沿線地域と企業の価値向上につながる施策を実施してまいりましたが、現在、その成果について十分な総括を行い、平成28年度を初年度とする新たな中期経営計画について、策定をすすめております。

運輸業においては、お客様に安全・安心かつ快適にご利用いただけますよう、引き続き安全管理体制を維持、強化するとともに、安全確保並びにバリアフリー化に向けた諸施設の整備・改善を積極的に推進いたします。鉄道事業では、より一層の旅客サービスの向上に取り組み、旅客誘致に努めるほか、常に業務の見直しを図るなど経営の効率化をさらにすすめてまいります。また、バス事業では、地域のお客様の利便性に配慮しつつ、利用状況や走行環境を踏まえたダイヤの改正・路線の再編等に積極的に取り組むほか、貸切・特定輸送において、企業・団体等への営業を強化することにより収益の確保に努め、業績の向上を目指してまいります。

不動産業においては、長期安定収入の増加を図るため、社有資産の有効活用を推進し、不動産賃貸業の一層の拡充に努めるとともに、魅力ある賃貸物件を開発することにより、沿線価値の向上に取り組んでまいります。

また、当社及び当社グループ会社社員が守るべき具体的な事項を定めた「行動規準」の周知徹底を引き続き図るとともにコンプライアンス体制を充実させ、法令・社会規範の遵守並びに企業の社会的責任の遂行に取り組んでまいります。

以上のように、当社グループは積極的な営業活動を行い、業績の向上に努めるとともに、経営基盤の強化安定を図ってまいります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月5日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	55,116,142	55,116,142	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	55,116,142	55,116,142	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	55,116,142	-	5,935,940	-	4,773,405

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
京成電鉄株式会社	千葉県市川市八幡3 - 3 - 1	21,424	38.87
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1 - 6 - 6	1,525	2.77
帝都自動車交通株式会社	東京都江東区門前仲町2 - 8 - 9	1,000	1.81
株式会社関鉄クリエイト	茨城県土浦市真鍋1 - 10 - 8	900	1.63
三井住友信託銀行株式会社 常任代理人日本トラスティ・ サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1 - 8 - 11	667	1.21
関東鉄道株式会社	茨城県土浦市真鍋1 - 10 - 8	666	1.21
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台3 - 9	646	1.17
新京成電鉄従業員持株会	千葉県鎌ヶ谷市くぬぎ山4 - 1 - 12	629	1.14
株式会社みずほ銀行 常任代理人資産管理サービス信 託銀行株式会社	東京都中央区晴海1 - 8 - 12 晴海アイランドトリトンスクエアオフィ スタワーZ棟	551	1.00
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1 - 8 - 11	482	0.87
計	-	28,493	51.70

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 212,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 54,610,000	54,610	-
単元未満株式	普通株式 294,142	-	-
発行済株式総数	55,116,142	-	-
総株主の議決権	-	54,610	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式582株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 新京成電鉄株式会社	千葉県鎌ヶ谷市くぬぎ 山四丁目1番12号	212,000	-	212,000	0.38
計	-	212,000	-	212,000	0.38

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,026,333	4,800,991
売掛金	1,244,264	1,197,197
リース投資資産	872,840	868,082
商品及び製品	19,714	16,822
分譲土地建物	2,877,179	2,884,679
原材料及び貯蔵品	353,770	388,081
繰延税金資産	211,242	224,794
その他	171,888	159,423
流動資産合計	9,777,233	10,540,073
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,623,817	20,283,869
機械装置及び運搬具(純額)	4,848,948	4,682,873
土地	9,325,727	9,325,727
建設仮勘定	20,216,061	21,882,104
その他(純額)	387,780	329,136
有形固定資産合計	55,402,334	56,503,710
無形固定資産		
その他	432,395	395,385
無形固定資産合計	432,395	395,385
投資その他の資産		
投資有価証券	8,184,156	7,525,061
繰延税金資産	110,961	119,152
退職給付に係る資産	238,197	246,003
その他	170,867	163,854
投資その他の資産合計	8,704,183	8,054,072
固定資産合計	64,538,914	64,953,168
資産合計	74,316,147	75,493,242
負債の部		
流動負債		
買掛金	807,890	664,351
短期借入金	3,413,880	3,274,290
未払金	3,394,471	2,340,856
未払法人税等	420,148	697,224
前受金	15,445,437	17,733,247
賞与引当金	436,203	427,711
その他	2,668,332	2,780,742
流動負債合計	26,586,364	27,918,424
固定負債		
長期借入金	7,853,240	7,200,990
繰延税金負債	948,179	730,535
退職給付に係る負債	3,007,342	3,050,056
その他	2,430,732	2,363,337
固定負債合計	14,239,494	13,344,919
負債合計	40,825,858	41,263,343

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,935,940	5,935,940
資本剰余金	4,774,519	4,774,519
利益剰余金	18,951,926	20,168,625
自己株式	78,353	78,768
株主資本合計	29,584,033	30,800,316
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,890,165	3,429,079
退職給付に係る調整累計額	16,090	502
その他の包括利益累計額合計	3,906,255	3,429,581
純資産合計	33,490,289	34,229,898
負債純資産合計	74,316,147	75,493,242

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業収益	9,840,110	10,227,451
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	7,506,881	7,689,103
販売費及び一般管理費	611,136	522,331
営業費合計	8,118,018	8,211,434
営業利益	1,722,091	2,016,017
営業外収益		
受取利息	444	413
受取配当金	35,596	30,319
持分法による投資利益	24,276	52,574
その他	18,032	37,803
営業外収益合計	78,349	121,110
営業外費用		
支払利息	110,311	94,610
その他	1,266	1,547
営業外費用合計	111,578	96,158
経常利益	1,688,863	2,040,970
特別利益		
工事負担金等受入額	1,005,585	21,012
特別利益合計	1,005,585	21,012
特別損失		
固定資産圧縮損	621,831	19,259
固定資産除却損	434,974	-
減損損失	91,585	-
特別損失合計	1,148,391	19,259
税金等調整前四半期純利益	1,546,057	2,042,722
法人税、住民税及び事業税	513,273	679,527
法人税等調整額	31,203	18,216
法人税等合計	544,476	661,310
四半期純利益	1,001,580	1,381,411
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,001,580	1,381,411

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	1,001,580	1,381,411
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	518,198	443,973
退職給付に係る調整額	38,439	15,588
持分法適用会社に対する持分相当額	14,073	17,112
その他の包括利益合計	570,711	476,674
四半期包括利益	1,572,292	904,737
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,572,292	904,737
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,546,057	2,042,722
減価償却費	1,423,540	1,397,515
持分法による投資損益(は益)	24,276	52,574
賞与引当金の増減額(は減少)	1,049	8,492
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	26,258	5,632
受取利息及び受取配当金	36,041	30,733
支払利息	110,311	94,610
有形固定資産売却損益(は益)	6,798	23,416
工事負担金等受入額	1,005,585	21,012
固定資産圧縮損	621,831	19,259
減損損失	91,585	-
固定資産除却損	532,744	66,709
売上債権の増減額(は増加)	130,416	47,066
リース投資資産の増減額(は増加)	-	4,758
たな卸資産の増減額(は増加)	20,427	38,919
その他の流動資産の増減額(は増加)	9,216	10,292
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	14,042	7,805
仕入債務の増減額(は減少)	441,302	156,741
未払消費税等の増減額(は減少)	99,829	108,031
預り敷金及び保証金の増減額(は減少)	79,734	66,056
その他	11,078	37,978
小計	2,983,264	3,396,977
利息及び配当金の受取額	74,201	67,501
利息の支払額	110,377	94,365
法人税等の支払額	647,494	411,161
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,299,593	2,958,951
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	4,461,929	3,553,336
有形固定資産の売却による収入	8,327	23,591
無形固定資産の取得による支出	130,810	26,834
工事負担金等受入による収入	3,474,290	2,331,579
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,110,121	1,225,000
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	951,940	791,840
自己株式の取得による支出	1,222	415
配当金の支払額	136,740	166,395
その他	1,448	642
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,091,352	959,293
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	98,120	774,657
現金及び現金同等物の期首残高	4,565,647	4,026,333
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,663,767	4,800,991

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
従業員給料及び手当	167,330 千円	169,138 千円
役員報酬	119,128	112,526
賞与引当金繰入額	34,756	29,392
退職給付費用	49,349	33,496

(注) 退職給付費用には、確定拠出年金への掛金及び従業員への前払退職金の支払額等が含まれております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	4,663,767 千円	4,800,991 千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	4,663,767	4,800,991

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	137,276	2.5	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月30日 取締役会	普通株式	137,268	2.5	平成26年9月30日	平成26年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	164,713	3.0	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年10月29日 取締役会	普通株式	137,258	2.5	平成27年9月30日	平成27年12月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸業	不動産業	計				
営業収益							
外部顧客への 営業収益	7,952,938	1,557,063	9,510,002	330,108	9,840,110	-	9,840,110
セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	9,402	27,134	36,536	43,730	80,267	80,267	-
計	7,962,340	1,584,198	9,546,539	373,838	9,920,377	80,267	9,840,110
セグメント利益 又は損失()	930,169	789,007	1,719,177	10,018	1,709,159	12,932	1,722,091

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニ事業等
 あります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っており
 ます。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「運輸業」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第
 2四半期連結累計期間において91,585千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸業	不動産業	計				
営業収益							
外部顧客への 営業収益	8,108,842	1,574,511	9,683,354	544,097	10,227,451	-	10,227,451
セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	13,602	31,717	45,319	44,138	89,457	89,457	-
計	8,122,444	1,606,228	9,728,673	588,235	10,316,909	89,457	10,227,451
セグメント利益	1,148,559	822,123	1,970,682	31,555	2,002,238	13,778	2,016,017

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニ事業等
 あります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	18円24銭	25円16銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	1,001,580	1,381,411
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	1,001,580	1,381,411
普通株式の期中平均株式数(千株)	54,909	54,903

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成27年10月29日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額 137,258千円
- (ロ) 1株当たりの金額 2円50銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成27年12月3日

(注) 平成27年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月2日

新京成電鉄株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 酒井 宏暢 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 田中 章公 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 桐山 武志 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新京成電鉄株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、新京成電鉄株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。